

## 世界防災フォーラム 2025 Poster Award を受賞しました (2025/3/9)

テーマ：世界防災フォーラム 2025、poster award、インクルーシブ防災

会場：仙台国際センター

URL：<https://worldbosaiforum.com/2025/news/detail---id-1014.html>

ボレー・セバスチャン准教授（国際研究推進オフィス）と朴慧晶助教（災害医療国際協力学分野）は、「災害における障がい者の脆弱性の理解」に関する研究で世界防災フォーラム 2025 Poster award を受賞しました。世界防災フォーラムは2年ごとに仙台で開催される世界の防災研究や活動関係の国際的イベントです。このイベントには国際的な研究者、実務家、行政、企業、市民などあらゆる災害に関わるみんなが集まります。

本ポスターは、2004年のインド洋津波から20年になった2024年、インドネシアのバンダ・アチェの支援学校で実施したインクルーシブな防災教育についての検証を発表したものです。「誰一人取り残さない」という原則は、国連持続可能な開発グループ（UNSDG）が提唱するインクルーシブでアクセシブルなアプローチで、より安全な社会の実現を目指して各国に促す理念です。この理念を防災の領域に拡大適用することで、特に障がい者をはじめとする脆弱なグループの間からよりインクルーシブな災害への備えを求める希望の声が上がるようになりました。インドネシアは社会的弱者グループの教育を促進する国家的なキャンペーンを通じて、インクルージョンまたは包摂を推進しています。現在、教育文化研究技術省（MoERCT）は、身体障害や知的障害のある子供たちが、通常のクラスで「障がいのない」友だちと一緒に学ぶことができる「インクルーシブ・スクール」の開発及び拡大を試験的に行っています。

災害リスクが高い国では、このようなインクルーシブ学校プログラムに基づいて平常時から、脆弱者を含めてすべての社会構成員から一緒に災害への備えをする必要があります。この研究は、身体障害や知的障害のある子供たちに適応した災害認識向上のための授業、教材、ツール、方法を開発することで、そのギャップを埋めるようにしました。この学際的チームは、バンダ・アチェの社会学者、災害学者、臨床心理学者、心理治療者、NGO、地域協力者で構成されています。特に主要な地域パートナーは、あらゆる障害のある子供たちに教育を提供する支援学校です。このような実践的研究活動では、誰一人取り残さないという観点から個人のさまざまなキャパシティやニーズを持つすべての子どもについて考えることができます。さらに、防災プログラムを実施して取りまとめた教材やフィードバック調査結果は、インクルーシブな学校環境を構築し、より広く社会全体に適用できる可能性について考察しています。



発表したポスター



Poster award 賞



Poster award 賞状

文責：ボレー・セバスチャン（国際研究推進オフィス）  
 朴慧晶（災害医療国際協力学分野）